

# 皆様が負担している保育料について

理事長/統括園長 大浦 純平

## ■ 今年も、皆様が福岡市や新宮町に納めている保育料について取り上げます。

そもそも、認可保育園の経営は皆様が市町村に納める保育料と「税金」によって成り立っています。「税金」は国と福岡県からの負担金と、市もしくは町の負担金、及び、減免によって国基準より安くなっている分の市と町の負担分です。福岡市が配布している「保育施設利用のご案内」には下の表の通りこれらの金額が明示されています。

福岡市が各園に保育を委託する総経費 約512億円			
国・県 負担額 約259億円	福岡市 負担額 約134億円	国が定める保育料額 約119億円	
		福岡市が徴収した保育料額 約82億円	減免分の市負担額 約37億円

保護者負担分 全体の約16%

保育園でお子様をお預かりするには、給食費、保育材料費、光熱水費、衛生管理費、保育士・栄養士の人件費などが必要です。そのため、この512億円を入園している園児の人数により振り分け、福岡市が市内の各保育園に保育を委託する費用として支払っているわけです。

## ■ さて、この保育料について2つの問題点が保育界を賑わしています。

「一つ目は」、今年10月から保育料の「無償化」が始まりますが、7月の園だよりでも書かせていただきましたように「給食費」は無償化からは除外されました。保育園に預けなくとも子どもたちの食費はかかるのだから、その実費は払ってもらいますとの理由です。国からの通知では、10月からはこの給食費は保育園に直接納めるような制度になりそうです。

しかし、保育園での栄養管理は「子供の健全な発育に必要な栄養量を含有するものでなければならない」と児童福祉法で規定されているにも拘わらず、給食は保育の委託からは除外し、保護者と各保育園の直接契約でやりなさいということになるのでしょうか。

国はこの給食費の金額は「今でも保育料の中に4500円を納めてもらっていた」ので、各保育園ではこの額を基準として積算しなさいと言っています。こうなると、各保育園で給食費の金額がまちまちになり、それによって給食の質に大きな差が生じてくることも考えられます。私たち保育関係者は今まで通り、4500円の給食費徴収を市町村が実施し各園に委託費として支払う制度を維持してもらいたいと考えています。

ただし、福岡市政だより(8月1日号)では「3歳～5歳児はこれまで保育料に含まれていた副食費(給食のおかず代)を引き続きご負担ください。」としか書かれてなく、市への支払いなのか、保育園への支払いなのか判らない記事になっています。市も決めかねているのではないかと若干の期待を持っています。

もっと言えば、給食費も無償化の対象とすべきだと訴えもしていきたいと思っています。

## 「二つ目は」、保護者の皆様が納める保育料の基になる公定価格の見直し論議です。

国は経営実態調査を実施・検証を行い、2020年度以降の保育予算にその内容を反映するとしています。私たちはその調査結果に驚いています。①保育施設はサービス業全般と比較して積立金が多い、②他の中小企業と比較して収支差率が高い、③土曜日の出席率が低いにも拘わらず公定価格は土曜日も全日分が積み上げられている。等々、明白に印象操作をしているのではないかと勘ぐってしまいます。

①については園舎の改修費用や人件費等に使う目的以外には使えないルールになっているし、②は市町村の単独補助金も計算根拠に算入しているし、③は公定価格では週の計算は保育士一人40時間でしか積算していない状況なのに、保育園の開所時間は週66時間なのです。各園では土曜日に交代で休みをとりながら週40時間をやりくりしている状況です。

「介護」の世界も財務省の思惑で公定価格が抑えられ人材難、経営難に陥っている状況が、保育園にも津波のように押し寄せてくるのでしょうか。「質の高い保育を目指す、待機児童を無くす」等と首相は言っていますが、財務省の進む方向を黙って監視(ヤブニラ)しているように見えてしよがありません。胃が痛む日々が続くそうです。



## さわりび保育園年報 第9号

2019年8月 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会 さわりび保育園

〒813-0031福岡市東区八田4-6-5

[TEL] 092-671-1881 [FAX] 092-671-1763

[E-mail] sawarabi@suobbq.jp

[HP] http://www.hojinkai.ed.jp/sawarabi/



皆さんこんにちは！三園で始まった新しい1年間、澄みきった瞳の子どもたちが、落ち着いて日々を送り成長していく事を願っています。

## ■ 全体研修を終えて

統括次長 大浦まゆみ



さて、輔仁会では1年に1度、三園のほぼ全職員が集まる「全体研修」を行っています。今年度は「ビジネススマイルコミュニケーション」テーマワーク等、大切にしている「子どもワーク」等の大切さについて学びました。今年、保育学科が創設されている九州産業大学の協力を頂きお一人の教授の先生

に講演をして頂きました。学校で保育を学んだ経験のない私にとっても新鮮な時間でした。

は輔仁会の保育でやっていると「よ」と思っていることは間違っていないことに嬉しくなりました。子どもたちは毎日の生活の中で、自分が主体となつて豊かな経験を、日々発見をしていく、保育園職員の中にも、園庭の風景の中にも、拭き清められた廊下や棚や、生けられた花に接しても子どもたちは日々新しい発見をして心を充実させ、真によいものごとを解つていくのだと思えました。

## 『親子の時間』

2019年度 父母の会 会長 光野 典

新年号に変わり令和元年度、父母の会会長を務めます光野と申します。さわりび保育園には、長女が0歳から入園した当初は、慣れない事や不安ばかりの毎日でした。そんな中、話せば行ける事や嬉しく、毎日話して楽しんでいた！先生方に私も沢山支えていただいたことに至ります。

今でも変わらぬ私の心に残る先生からの言葉の一つ「お母さんとお父さんの時は、親子の時間を大切にしてくださいね。」この言葉の中に、いろいろな思いが込められている事を教えていただきました。

私たちが見逃してしまいうほど、子どもの成長はあっという間で、自分で出来ることが増え、いづれ人前で手を繋いでくれるようになります。出来たら嫌がらぬ「ママ見て！出来たら嫌がらぬ」といふ言葉も、今も大事にしています。



## 『開設50年』に思うこと...

園長 三笠良子

当園は1970年(昭和45年)に大浦仁子(前)理事長により開設され、初代森部園長、仁子園長、楢原園長と受け継がれ、先輩の多くの職員の皆様によって「さわりび」の保育が醸成されて参りました。今年50年目の節目の年となります。

開園当初は木造の園舎で定員は100名でした。全員が新入園児だった中で、ただただ夢中で子ども達と向き合った毎日だったと聞いています。当時のアルバムを見ると、開園初年度から充実した毎日をおくり、2年目には運動用具を揃えて現在のB広場で運動会を行った様子もうかがえます。50年の間に園舎は改築や増築が行われ、2016年(平成28年)に現在の一部3階建ての園舎となり定員は280名となりました。昨年この紙面でお知らせした園庭の改造が完了し、新しい遊具は子ども達の人気の的となっています。

開園当初から地域の方々のご協力、ご支援をいただき見守られながらの50年です。幾度かの増改築の際や、送迎の為に「和太鼓」の音など、ご迷惑をお掛けする事も多々あったとは思いますが、地域の方々のご理解とお支えのおか

げでつつがなく過ごすことが出来ています。感謝の気持ちで一杯です。この他にも駐車場横にお借りしている「さわりび畑」では、子ども達だけでなく保育士も、同じ畑を借りてあるご近所の方々から農作業の手ほどきを受けることも

あり、大変助かっています。園前の交差点には朝夕交通指導と見守りを兼ねて地域の方が立って下さっています。50年という年月の間に在籍した職員は308名です。歴代の園長や保育士、給食や用務の職員が、子ども達に愛情豊かに接し健やかな育ちを見守ってきました。卒園児は2,302名、保護者も含め随分と沢山の人が人生の一時を、このさわりび保育園と関わりをもち過ごしてきたのだな、と改めて思います。大きく育った姿で幼い頃の面影を残しつつ訪れてくれる卒園児もいます。保育の現場に携わっている者として嬉しいことです。

さわりび保育園はこれからも一年一年その歴史を積み重ねていきます。何より子ども達に沢山遊べる環境を用意して、「保育理念」である『子ども達に最も善の喜びと幸せを子育てに夢と力を』を実践していきます。



2019年度		行事	
4月	1日	はじめての会	
4月	3日	園児健康診断	
4月	6日	クラス懇談会	
5月	10日	園児健康診断	
5月	24日	家庭訪問	
5月	23日	歯科検診	
6月	1日	保育士月間	
6月	4日	芋苗植え	
6月	8日	親子保育	
7月	5日	体力測定 3日間	
7月	11日	七夕会	
10月	12日	運動会	
10月	24日	三日山登山	
11月	1日	体力測定 3日間	
11月	6日	芋掘り	
11月	14日	影絵鑑賞 青組	
11月	15日	たからもの展	
12月	8日	園児健康診断	
12月	14日	合同音楽発表会	
12月	14日	もちつき	
1月	7日	七草の会	
1月	10日	鏡開き・どんど焼き	
1月	11日	年少発表会	
2月	3日	スケート指導(青組)	
2月	3日	豆まき	
2月	15日	さわりび発表会	
3月	3日	ひなまつり会	
3月	6日	お別れ会	
3月	7日	お別れ会	
3月	11日	お別れ遠足	
3月	21日	卒園式	
3月	25日	入園式	

平成30年度 さわらび保育園決算状況 (単位 円)		
【 資金収支計算書 】		
事業活動 資金収支	保育事業収入	253,360,169
	経常経費寄附金収入	488,900
	受取利息配当金収入	49,695
	その他の収入	4,931,732
	事業活動収入計(1)	258,830,586
	人件費支出	175,723,243
	事業費支出	28,878,743
	事務費支出	13,038,205
	支払利息支出	0
	その他の支出	4,638,721
	事業活動支出計(2)	222,278,912
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	36,551,674
施設整備等 資金収支	施設整備等収入計(4)	130,000
	施設整備等支出計(5)	4,886,107
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-4,756,107
その他の活動 資金収支	その他の活動収入計(7)	1,278,000
	その他の活動支出計(8)	27,665,758
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-26,387,758
	当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	5,407,809
	前期末支払資金残高(11)	28,669,756
	当期末支払資金残高(10)+(11)	34,077,565

【 貸借対照表 】		
資産	流動資産	46,455,266
	固定資産	459,025,002
	資産の合計	505,480,268
負債	流動負債	12,233,357
	固定負債	0
	小 計	12,233,357
純資産	基本金	72,785,900
	国庫補助金等特別積立金	242,584,940
	その他の積立金	48,000,000
	次期繰越活動収支差額	129,876,071
	小 計	493,246,911
	負債及び純資産の合計	505,480,268

※詳しくは輔仁会ホームページの情報公開よりご覧頂けます

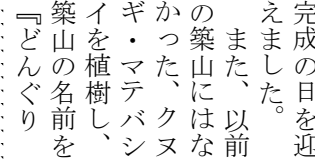
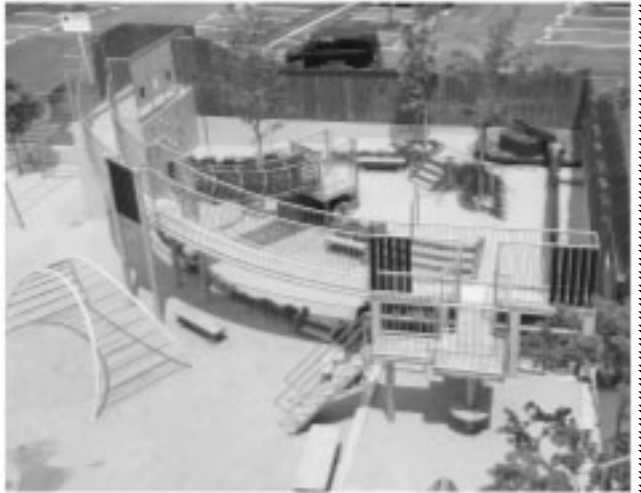
2019年度 職員構成 (8月1日現在 55名)	
理事長	大浦 純平
統括次長	大浦 まゆみ
事務長	大浦 有平
園 長	三笠 良子
主 任	荒津 佐知子
副主任	中村 一星
事務主任	林 美由起
もも組	原口 直美 畠山 美桜 下川 加南子 福山 ひとみ 久保 香織
うめ組	田畑 未奈美 坂本 未来 渡辺 久美子 山下 鈴華
さくら1組	中野 日花里 磯志徳実 袴田 れい子 古賀 美夏
さくら2組	飛来 弘子 森 浩貴 前車 智子 福山 美幸
さくら3組	平河 奈緒子 東 美早緒 鎌田 真理 松田 雄紀 中島 千賀子
年少フリー	佐野 美奈子 柴藤 彩 薄 一美 柳 孝恵 今村 優己子 松本 奈緒美
なのはな組	楠本 勝馬 朴木 千佳子
たんぽぽ組	池田 加奈 湯之前 駿司
すみれ組	山本 紗代 濱 千尋
れんげ組	小林 千春 佐藤 由佳
つくし組	串尾 由依 林田 亜由美
年長フリー	中村 一星
栄養士	渡辺 和 谷口 穂香
調理員	串崎 美津代 西原 ひろ子 齊藤 豊子 池田 善子 郷良 小百合 安田 孝子
保育補助	平川 舞
用務員	小嶋 満廣

2019年度 父母の役員	
会 長	光野 典
会長補佐	三根 一晃
々	藤本 倫代
書 記	平 結
々	中尾 里佳子
会 計	川崎 佳奈
々	洪田 麻奈美
役 員	堤 優
々	村島 杏奈
々	宮本 恵美
々	花田 彩香
々	富坂 綾子
々	木戸 翔子
々	西野 恵美
々	木練 仁美
々	東 峰沙
々	四郎園 志保
々	亀井 悠香
々	後藤 紀子
々	山内 頌子
々	稗田 愛
々	宮本 由莉恵
々	三根 一晃
々	倉掛 理絵
々	劉 世芳
々	牟田 久美
々	千種 一実
々	ヤセンヘイリニサ
々	地福 ゆり
々	中嶋 美里
々	金藏 舞
々	夏目 結花
々	佐伯 美奈子
々	前田 志保美
々	李 楠楠
々	江渡 安里采
監 査	佐藤 加奈子
々	山内 えり子

# 園庭リニューアル



←築山の上に大きな橋ができました。子どもたちも高い所から景色を眺めたり、虫が来ていないか様子を見ながら楽しんでいます。



「どんぐり築山の名前を」  
完成の日を迎えました。また、以前の築山にはなかった、クヌギ・マテバシイを植樹し、

新しい園舎になった時に園庭に大きな築山ができました。昨年、理事長から「この築山も含めて園庭でどんな遊びを楽しめるか、どんな遊びを経験させていきたいか。みんな考えてみてごらん。」という提案を受けました。  
早速、プロジェクトチームを立ち上げ、まず子どもたちの遊びを観察することから始めました。遊びの要素としてどんな物を取り入れたいかを絵にして理事長に見てもらい、業者さんへ交え、どんな遊具が設置可能なのか、子どもたちの動線はどうかなど打ち合わせを進めてきました。設計図を元に何度も話し合いを重ね、今年の5月末より工事がスタートしました。工事車両が園庭に入ると、その様子を見ながら完成まで今か今かと首を長くして待っていた子どもたち、そしてついに7月初旬、完成の日を迎えました。

「山」と命名しました。高さがありちよっぴりドキドキする大きな橋、虫になった気分を渡る赤いネットが水が出て水路の水が流れる、暑い日には気持ちのいいミスト。子どもたちは目を輝かせながら一つ一つの遊具を確かめるように遊び、楽しんでいきます。



↓ポンプから水が出てきて、水路を通っていくのを追いかけて見えています。水の動きを見たり、葉っぱの船を浮かべて楽しんでいるところです。



↑大きな一つの山だったので、段差がつき土が流れないようにになりました。広々としたどんぐり山を子どもたちが所狭しと動き回っています。

## 〜キャンプからお泊まり保育へ

園外で行っていたキャンプを例年の天候の悪さや自然災害への憂慮から、園内での「お泊り保育」という形に変更して2年。「保育園に泊り、夜の保育園を経験する」「一人で出来ることは頑張る」ということを子どもたちが体験できるように職員間で話し合ったり、子どもたちともいろいろ話し合いながら進めています。



↑ドキドキの肝試し。今年は園長先生を救出するために友だちと協力しながら課題をクリアしていきました。

↓一番乗りのプール。子ども達も大喜びで入っています。

↓自分たちで作った旗を歌を歌いながら掲揚しました。



お泊り保育に向けて活動する際には小グループを作り、色々なクラスの保育士とコミュニケーションを取りながら、クッキングや係決め、出し物の練習など、子どもたちの考えを受け止めたり、人前で話をする・発表するなど一つ一つの取り組みの中でも経験や体験を大切にしています。夜になるとドキドキの肝試し…。子どもたちに大切にしてほしいことを課題として盛り込み、友だちと協力したり乗り越えたりすることを経験しています。

今後、反省と実践を繰り返しながら毎年少しずつ内容は変化していくと思いますが、子ども達の中で受け継がれていく、楽しみな行事のひとつにしていきたいと思っています。

**■法人の就職見学会が行われました。**

・7月27日(土)に2020年採用の学生を対象に見学会が行われました。5名の学生が参加しています。(荒津)

**■映像設備が新しくなりました。**

・ホールの映像を保育室で見ることができるようになりました。つくしれんげ・さくら1事務室に映像を流すことができ、現在発表会などの控室で待ち時間などでも見られるようになっています。(楠本)



↑記念品作り。フォトフレームやスノードーム作りをしました。

↑園庭でラジオ体操。朝の気持ちの良い空気の空気を動かしました。

寄せられた意見・要望の状況			
受付年月日	申出者	受付内容	解決結果
平成30年8月10日	園児保護者 (匿名)	現在のさわらび保育園の行事に対する考え方に不安を感じている。様々なことを一歩ずつ試してみたい。	直ぐに職員で話し合い、日々の保育や行事について大切にしていることは何か共通理解をはかる。行事についての考え方をまとめ園便りの臨時号として各家庭に配布する。